

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570500425		
法人名	社会福祉法人 白鳩学園		
事業所名	白鳩老人グループホーム		
所在地	山口県周南市大字大島637番地		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町受理日	令和3年4月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
聞き取り調査実施日	令和2年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の社会福祉法人白鳩学園は知的障害者の施設です。「障害者と高齢者のふれあいの館」として、ごく自然な形で互いに支えあっています。運営推進会議から発信された「白鳩祭り」も昨年10周年を迎え、地域の方々の楽しみと なっていましたが、今年はコロナウイルス感染予防、拡大防止により中止となりました。昨年度まで当たり前に開 催・参加していた福祉学習・キャップアート・運動会・文化祭・クリスマスソング行事の参加、ふれあい祭、地区文化 祭、自主防災研修など小中学校や地域との交流もない中、避難訓練や周辺(地域)清掃、みかん狩り、敬老会など 事業所独自で取り組める工夫を行い実施しました。今まで築上げた地域との繋がりを閉ざすことなく、これからも、 今まで以上に「認知症になっても地域の中で安心して暮らしたい。」「自分らしさを保ちながらのんびりと喜びのある 暮らしをしたい。」そんな誰もが願うごく普通で当たり前の生活を送っていただきたいとグループホームを展開してい きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に開かれた施設を目指して取り組まれてきた事業所主催のお祭りや様々な地域交流行事が、コロナの影響で 開催できない中でも、利用者と職員と一緒に施設周辺の清掃作業に取り組み、地域の一員として活動され、地域 の人との交流の機会をつくっておられます。秋の味覚を味わうミカン狩りを家族と一緒に楽しめたり、長寿と健康を 祝う敬老会、忘年会を兼ねたクリスマス会など楽しみごとを工夫されて支援に取り組んでおられます。朝食と夕食は 事業所で手づくりされ、下ごしらえから後片付けまで多くの利用者が職員と一緒に賑やかに取り組み、みんなで楽 しく食卓を囲んでおられます。管理者を中心とした職員間のチームワークも良く、日頃から意見の言いやすい関係 ができており、職員の意見や提案を取り入れて運営に反映されています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			○ 3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			○ 3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、新年度準備の1つに理念の見直しをしています。みんなで話し合って掲げているものなので1人1人が意識づけられます。理念はここ最近変更することなく、全職員の意識はしっかり保たれているように思います。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、毎年3月に新年度の具体的方針を話し合い、事務所内に掲示している。理念は職員の名札ケースに入れて共有を図っている。日々の支援の中での課題や対応に迷う時には、理念や具体的方針をもとに話し合い、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの関係上、今年は予定されていたものは中止となりましたが、ここ数年交流を持っていることで関係は途切れていないと思います。しかし外に出る機会は減っています。	2カ月ごとに地域住民向けの事業所だよりを自治会に回覧している。地域の文化祭に利用者と職員でつくった壁飾りの作品を出展し、会場で地域の人と交流している。小、中学校の文化祭に出かけたり、事業所のクリスマス音楽会に小中学生が参加して一緒に楽しんでいる。5月と10月には、施設周辺の清掃作業に利用者と職員が参加して地域の一員として活動している。利用者は施設周辺の散歩時に地域の人と挨拶を交わしたり、栗やふき等野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年の予定していた認知症サポーター養成講座は中止となりましたが、認知症の人への理解は浸透しているように思います。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善項目に関しては、全職員が見直す機会を作っています。内容によっては内部研修にも取り入れています。	内部研修で主任が評価の意義を説明している。全職員が自己評価に取り組み、書類に記入したものを管理者と主任が話し合っまとめ、再度職員に提示して意見を求めている。応急手当や初期対応の実践力を身につけることを目標にあげ、誤嚥や窒息など、起こりやすい事故の研修から優先的に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催に迷いながらも計画通りに実施しています。今年度はメンバーも変わっていますが、いい意見をいただいています。特に身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会では事例紹介や検討課題を取り上げてメンバーで共有しています。	会議は、1月まで併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行い、3月以降は事業所のみで2カ月ごとに開催している。コロナの感染拡大を考慮して、5月は書面での会議を開催したが、何も意見が返ってこなかったため、再度市と相談し、7月以降は感染対策に配慮しながら事業所で開催している。利用者の状況や行事報告、事故報告、苦情・相談内容の報告などを行い、意見交換している。キッチン内に鏡を設置して、利用者の見守りを行う工夫など、参加者から得た意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にいられた際にはアドバイスもいただき、親身に対応してもらっています。個別の問題の件でも的確な意見をいただきました。	市の担当者と支所長が運営推進会議に参加して情報交換を行っている他、直接出向いたり、電話で相談して助言を得ているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議で情報交換している他、電話で相談するなど、日頃から連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で毎年様々な資料を準備し、全職員で取り組んでいます。玄関の施錠においては、現段階では安全確保等、取り組むには難しい面もありますが、少しずつでも取り組めるように真剣に話し合う機会が必要かと思っています。	「身体拘束等行動制限対応マニュアル」を作成し、職員は年1回内部研修で学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議時に「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を開催し、事例や課題をあげて検討している。家族や参加者に身体拘束を正しく理解してもらい、意見が聞けるよい機会となっている。スピーチロックが気になる場合は、管理者や主任がその場で注意し、職員会議でも話し合っている。外に出たい利用者に対しては、職員と一緒に外出したり、家族と電話で話してもらうなど工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修でもとりあげていることから、1人1人が意識してケアに努めています。再認識するいい機会にもなっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に組み入れた資料を提供しています。制度の理解と活用するためにも分かりやすい資料をもとに研修を進めています。外部研修にも目をむけたいです。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度も新入居者の受け入れがありました。管理者から十分な説明を行い、現場の細かいことは主任を中心に伝えました。分からない部分についても聞きやすく分かりやすい説明ができるよう心がけています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談については話しやすい環境等を作りその都度対応策を考えています。また運営推進会議で外部者に内容を伝える機会を作り、意見や助言を運営に反映しています。また、第三者委員にも苦情・相談内容を報告する機会が設けられています。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に本人や家族に説明している。家族からの意見や相談は、面会時や行事参加時、電話時、運営推進会議時などで聞いている。毎月の事業所だよりで利用者の状況を伝えたり、「家族への伝言ボード」を活用して、家族への連絡を徹底している。家族の面会時には必ず職員が声かけして、意見や要望を聞いたり、壁に掲示した写真の説明をしながら利用者の様子を伝えて、家族からの意見が出やすい関係づくりに努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が交代勤務をすることで、すれ違いも多く時間が取れていないという声もあります。ケアカンファレンスへの参加の声があり、意見交換する機会が必要と思われます。	管理者は、毎月の職員会議や主任会議、毎日の申し送りなどで職員からの意見や提案を聞いている他、日頃から職員に声かけして意見を言いやすい環境を整えている。職員からの意見を集約して、法人の事務長や理事長に相談したり、法人全体の合同職員会議で提案している。職員からは、隣接の小規模多機能型居宅介護事業所の事業廃止に伴う、夜勤1人体制への不安や配食サービス導入の意見があり、数日にわたり夜間の緊急時対応の研修を開催したり、昼食に配食サービスを導入しているなど、反映している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場職員からの声は様々で、環境を整え人手不足にならないようにする必要があります。ここ数年、人手不足は改善されていません。今年度は人事考課への取り組み・準備に入っている為、今後に期待しています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修のみです。外部研修や他部署の研修状況が分からず、参加出来ていません。ただ、法人全体の取り組みとしての人事考課研修に参加しています。	今年度から法人全体の取り組みとして、社会保険労務士などを講師に、テーマを決めて年間8回程度、人事考課研修を開催している。欠席者は研修を録画したDVDを各自で見ている。内部研修は、毎月テーマを決めて(緊急時の対応、感染症・食中毒、記録について、認知症ケア、倫理・法令遵守・権利擁護、リスクマネジメントなど)行い、職員が交替で講師を務めている。受講後は研修レポートを提出し、欠席者は資料を基に自主学習をしてレポートを提出している。新人職員は、年2回管理者が新任研修マニュアルに沿って研修を行っている。資格取得については、受講に対する他職員の理解を求める声かけ、勤務表の配慮等をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会作りに消極的かもしれません。職員の方から機会を作ってほしいと声もある為、取り組みは必要かもしれません。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画書にしっかり書き込まれており安心・安全を心がけています。毎日の様子から職員も少しずつ距離を縮めていく努力をして信頼関係を築いています。コミュニケーションを取るようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が心配していることが何なのか、入居時にしっかり聞くことで様子を伝えることもできるし不安を取り除けるとしています。連携はしっかり取っていく関係性は大切にしています。初日の様子は連絡して伝えています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今年度は数人の入れ替わりがありましたが、しっかり時間は取ったように思います。いろいろな情報を得ることで対応できていると思います。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合った能力を理解・把握し生活の中で活躍できる場等を作り、共に助け合いながら生活をしています。声を掛け合い、一緒にを念頭においています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年は遠慮もあつてか、面会や外出等は少なく関係性が薄れている気もしますが、ご家族もそれぞれの形で支えられているように思います。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、日常的に行っていた買い物や地域行事参加が自粛や中止によりできなくなりました。また、家族との面会や外出も制限せざる負えない状況となり、限られた中での馴染みの関係継続を図りました。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、近所の人の来訪がある他、年賀状や手紙の支援、電話の取り次ぎを支援している。手紙の相手に電話でお礼を伝えることもある。家族の協力を得て馴染みの美容院へ出かけたり、自宅や息子宅、兄弟宅に出かけるなど馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援している。現在面会は、コロナ感染予防対策のため、身近な人1、2名のみとしており、電話で家族と話せるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今年は新規利用者が数名、入れ替わりがあるとまた新鮮で、いい関係性は出来ているように思います。うまく関係が作れない、トラブルになることもあります。職員が間に入り関係作りに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られる際は、移り先でのダメージを最小限にするための細かな情報提供や家族への配慮に努めるようにしています。今までも、うまく連携が取れているように思います。そういう気持ちは大切に配慮する努力はしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や本位を聞き出し、実現できるように努めていますが、困難なケースも多く難しです。しかし、利用者の思いは職員も理解している為、意見を出し合うことは大切にしています。	管理者と主任が自宅訪問して得た情報を元にした入居時のアセスメントを活用している他、担当職員が3ヶ月ごとにケアチェック表を記入して利用者の状況を見直し、日々の関わりの中の会話や言葉、表情などを介護記録に記入して、利用者の思いや意向を把握している。24時間シートを活用して1日の流れを把握している。把握が困難な場合は、本人になりきって考えたり、いつもと違う発言や小さな変化を見逃さないようにしている。家族の意見を参考にしたり、職員間で話し合って本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今年は特に利用者の入れ替わりもあり、情報提供をもとに1人1人の生活スタイルはなるべく変わらないようには努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して掃除、調理、洗濯など声をかけながら、できることへの参加を呼びかけています。またレクリエーションの時間などから新たな力の発揮に気づかされることもあります。24時間シートの活用も声にあがっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録からあがっているものをケアカンファレンスで再度あげ、その人のより良く暮らすための課題とケアのあり方について意見を求めることで、全職員が統一したケアが提供できるようにしています。	担当職員が本人、家族の意向を反映させ、主治医や看護師の意見を参考にして案をたて、計画作成担当者と話し合っ、介護計画を作成している。毎月のカンファレンスで日々の記録を元に課題やケアのあり方について話し合い、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、1年ごとに計画を見直している。本人の状態に変化がみられた場合は、その都度話し合って現状に即した介護計画を立てている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンスで話し合ったことは個別に記録用紙を作り経過が把握しやすいようにしています。毎日の記録(介護日誌)も、活動内容やかかわりの中での会話等を残すようにしたり、数人で記録を書くようにしている為、情報は共有しています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全てのニーズに応える事は難しいが、できる限りひとり一人のニーズにあったものに力を入れてケアしています。人手不足もありますが、柔軟性に目を向けるように努力は必要です。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの関係もありますが、地域資源の活用は思ったほど活用は出来ていないように感じます。しかし、1人1人が力を発揮し安全な環境で楽しく暮らしができるように支援はしています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されたから医療機関を変更するのではなく、いままでのかかりつけ医を大切にしています。途中で変更されるケースもあります。定期通院については事業所対応とし医療機関との連携に努めています。また、家族には、通院予定日等お知らせしています。	本人、家族が希望する医療機関をかかりつけ医とし、協力医療機関の場合は事業所が受診支援を行い、それ以外のかかりつけ医や他科受診は家族が受診し、文書にて情報提供を行っている。家族の高齢化や利用者の重度化などで受診が困難な場合は、事業所が支援している。受診後は申し送りノート等で全職員が情報を共有し、必要に応じて家族に報告している。日頃から法人の看護師に相談したり、緊急時の対応の協力を得ている。夜間や緊急時は、管理者を通して夜間対応型診療所、夜間緊急外来を受診するなどし、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれに処方されている薬を職員が把握できるように工夫しています。また、内部研修にも組み入れています。バイタル値に不安があったり急変があれば併設の看護師に相談・処置が気軽にできる状況です。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院の流れにおいて、受け入れ可能な段階でなるべく早く退院できるように、病院関係者と情報を共有し、状態把握に努めるようにしています。実際に予定より早く退院できた方もおられます。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限りの対応をしています。状態の変化によっては、ご家族との話す時間も大切に理解していただき、ケアに努めているケースもあります。職員の方からは重度化や終末期にむけた研修の声もあがっています。	重度化した場合や終末期に向けて事業所ができる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、利用者や家族の意向をふまえた上でかかりつけ医と相談し、他施設や医療機関への移設を含めて話し合い、方針を決めて全職員で共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	4月に緊急シートの作成、研修を取り入れました。誰もが対応できるようになるためには、繰り返し身につけることが大切ですし、ヒヤリハットの活用もあがっています。まだまだ不安はあります。	発見者が事故の原因や改善策を検討して「事故・ニアミス報告書」に記載し、管理者の意見書と一緒に申し送り時に報告し、回覧している。その後、カンファレンスで再度話し合い、再発防止に取り組んでいる。緊急時に利用者の必要な情報をスムーズに伝えられるように緊急シートを作成し、内部研修で誤嚥や窒息、骨折等緊急時の対応について学んでいる。	・全職員での応急手当や初期対応の実践力を身につける定期的訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回の訓練をすることで、再度確認するようにしています。災害に関しては外部での研修や合同の訓練等の参加し、いざという時に落ち着いて行動できるようにする必要があります。6月に土砂災害、10月に火災訓練を全職員が参加できるように計画しました。	6月に法人全体で土砂災害を想定した避難訓練を行い、10月に3日に分けて事業所独自に昼間の火災を想定した消火・避難訓練を行い、利用者も参加している。例年は消防署、地域の消防団、地域住民の参加があるが、今年はコロナ禍で事業所のみで実施した。3日間行うことで全職員が参加でき、日曜日に実施したことで、法人施設の施錠箇所が平日と異なることに気付くことができた。地域の消防団長や団員が職員におり、法人施設は 地域住民の避難場所としての役割を担っており、日頃から地域との協力体制を築いている。法人全体で2日分の献立や飲料水、缶詰、電灯などの備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応で変わることは理解しています。介護日誌には対応でどうだったか・その後の過ごし方等記録することで参考にしていくこともあります。毎日の生活の中で基本になることなので1人1人が意識してケアにあたる必要があります。	職員は内部研修で学んでおり、一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。排泄時や入浴時は見守りながら、音や気配から適切なタイミングで声かけしたり、1対1で関わるなど工夫している。不適切な対応が見られた時は、その都度管理者や主任が注意している。書類は事務所で適切に管理し、守秘義務については研修で学んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが先に決めてしまわないように時間をとる努力・声かけの工夫をしています。1日を通してたくさんの機会を作っているように思います。又、難しい方にも勝手に決めないで声かけを大切にしています。待つ介護と実践を意識しています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせるように心がけていますが、急がしているような場面もあります。待つ介護の実践ができるように意識していきたいです。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服を選ぶことが難しい方も身支度をする時間は、その人その人にあった対応を心がけています。身だしなみへの意識が高い方もおられる為、そのような時間も大切にしていきたいです。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんは食事をとても楽しみにしています。調理に参加できる方は以前に比べると増えました。台ふき、盛り付け・配膳・食器を下げる・食器洗い等食事に関してはさまざまな場面で参加しています。	法人の栄養士が利用者の希望を取り入れた、栄養バランスのとれた献立をたて、朝食と夕食は事業所で調理し、昼食は配食サービスを利用している。利用者の状態に合わせて、刻み食やミキサー食、とろみ食など食事形態を工夫している。利用者は、野菜の下ごしらえ、味つけ、盛り付け、お茶くみ、下膳、食器洗い、食器ふき、台ふき、お盆ふきなどを職員と一緒にやっている。職員は弁当を持参して、利用者と同じテーブルで一緒に食事を楽しんでいる。行事食(おせち、恵方巻き、節句、そうめん、土用のウナギ、クリスマスなど)、誕生日のケーキ、月2回のおやつづくり(おはぎ、白玉団子、芋ようかん、牛乳寒天、コーヒゼリー、パフェなど)、ミカン狩りでのお弁当、家族の協力を得ての夕食、自宅や兄弟宅での食事など、食べることを楽しむ機会を工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増加が気になる利用者が多いこと、水分が摂りにくい・拒否がある方など様々ですが、計画書にあげ対応策に取り組むことで解決されている方もいます。職員は、特に水分の少ない方・摂取に制限がある方への配慮は意識しています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを理解し、個々に応じた支援を毎食後実施しており、毎日のケアにより清潔が保たれています。今年は訪問歯科を招く予定でしたが延期となり、実現すれば、また新しい対応が出来ることを期待します。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表の活用により、1人1人に応じたケアを心がけ、成功につながる支援をしています。失敗を減らす取り組みを考えればもう少し努力が必要です。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、利用者に応じた声かけや誘導をしている。失禁時は紙パンツやパットだけ見るのではなく、トイレでの排泄があるか、もう1歩先の状態を知ることで排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の確認があいまいな方や便秘のひどい方が多くなり薬の服用をしている方が増えましたが、便秘にならないように水分をしっかり摂ってもらったり、献立や活動面にも気を付けています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきのグループ分けをしています。希望を聞くことで毎日入浴も実現しているところ。一人ひとりの要望・季節(発汗等)・失禁等により誰もが毎日入れるように対応しています。しかし、なかなか時間帯等の変更は実現が難しく、できる限りの要望に応じています。	入浴は毎日可能で、15時から16時の間に少なくとも2日に1回は入浴できるように支援している。利用者の体調に合わせて、シャワー浴、足浴、部分浴、清拭など対応している。入浴したくない人には声かけのタイミングをずらしたり、職員を変えるなど工夫して、無理強いないように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休息はほとんどの方がされておらず午後からの休息は居間を休める場としています。休息は一人ひとりの希望にできる限り添いますが、活動や夜間の睡眠に支障のないように配慮しています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表で内服状況や副作用など各々の情報を、全職員が理解できるようにしています。また服薬支援には細心の注意を図り、飲み忘れ・誤薬がないように努めています。随時薬においては申し送りノートに記載し、飲み忘れ等ないようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌ったり、おしゃべりをしたり、その時その時にみんなで楽しむことができるようにしています。何か取り組むと、それぞれの活躍の場が見えてきます。残存機能の維持に努める努力はしています。	テレビ視聴(歌番組、スポーツなど)、DVD視聴、ぬり絵、貼り絵、ちぎり絵、折り紙、手芸、風船バレー、ボーリングゲーム、ボール投げ、トランプ、カルタ、脳トレ(漢字、計算)、歌、ラジオ体操、文化祭の作品づくり、小・中学生との交流、誕生会、季節の行事、ミカン狩り、おやつづくりなどを楽しんでいる。洗濯物干し、洗濯物たたみ、居室のモップかけ、ゴミ出し、雑巾縫い、ボタン付け、食事の準備や後片付け、プランターの水やり、野菜の収穫など、好きなこと、したいことや活躍できる場面づくりを行い、張り合いや喜びのある生活を支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの関係もあり、周辺での散歩や日光浴等はしていますが、外出や買い物に行く機会は出来ていません。家族との外出も通院を兼ねてであり、十分なことはできていません。	事業所周辺の散歩、外気浴、初詣、ミカン狩り、地域の文化祭、小・中学校の文化祭などに出かけている。家族の協力を得て、美容院の利用や自宅、息子宅、兄弟宅へ外出している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しているが機会を作ることができていません。お金を心配されている方もおられる為、お金にふれる機会は作っていきたいと思っています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、かけたい時にかけれるようにすることで安心できる方もいます。家族と話すことができたことで、帰宅願望や不穏が解消する時もある為、気軽に活用していけたと思います。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感は、食事や壁飾り、行事などで作り出すようにしています。写真は、様々なところで撮るようにして、家族にも様子が伝わり全体的に空間が明るくなるような工夫を心がけています。	居間兼食堂は明るく広々としており、食卓からは台所での調理の様子が見え、音や匂いと共に生活感を感じることができる。居間の大型テレビの前には大きなソファが置いてあり、ゆったりとテレビを楽しむことができる。畳スペースでは洗濯物をたたんだり、寝転んだりして活用している。共用空間や廊下には、気の合う仲間と話したり、一人でくつろげるようにソファや椅子を設置している。壁には利用者の写真や利用者と職員が一緒につくった季節の作品を飾っている。室内の温度や湿度、換気にも配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いが自分の居室に呼んだり、廊下の椅子・ソファ・食堂の定位置等工夫して過ごせる場所を作っています。廊下に椅子を増やしたことで、くつろげる場となっています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ケガのないよう配置を考えています。居室内はすっきり片付いている方もいますが、装飾品も本人さんの思いで配置もよく変わっています。飾っておいてもしまい込まれていたりしますが、もう少し自分の家らしく過ごせる空間になればいいなと思います。	自宅で使い慣れた整理タンス、衣装かけ、机、イス、寝具、時計、日用品などを持ち込み、孫や兄弟の写真、誕生日に職員から送られた色紙などを飾っている。室内を安全に移動できるようにベッドや家具の配置を考えるなど、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。いつでも帰れるようにと、荷物をまとめている利用者があるが、その人らしさを大切にしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりにあった生活ができるように、配置だったり居室の目印に工夫をして環境作りをしています。安全面を考えようと随時検討しています。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 白鳩老人グループホーム

作成日： 令和 3 年 4 月 30 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36 (16)	感染症や災害が発生した場合であっても必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築する必要がある。	利用者に対して必要なサービスが安定的・継続的に提供できる。	○新型コロナウイルス感染症発生時の業務継続に向けて研修・シュミレーションを実施する。 ○自然災害発生時の業務継続に向けて研修・シュミレーションを実施する。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。